

第 12 回 「家族理解」勉強会のお知らせ

対人援助の第一歩は「家族をまるごと理解すること。その理由は、理解することは誰にでも取り組めることであり、それが最大の援助であるから」（団士郎先生）是非と一緒に「家族理解」を学んでみませんか？
対人援助に関わっている方ならどなたでもご参加できます。

日 時 平成 29 年 3 月 8 日（水） 18：30～20：30

場 所 山形市総合福祉センター 3F 会議研修室 2

内 容 情報交換 面接技術 事例検討 他 *FAXにて申し込みをお願いします

佐藤千鶴（地域包括支援センター ふれあい 内） 行

FAX 023-628-3984

参加者氏名	
所 属	
職 種	
住 所	
連 絡 先	TEL FAX
事例提供希望	有り（提供希望の方は○をつけて下さい）

【前回の様子】 【参加者】 8名（新規4名）

ケアマネ3名 看護師1名 ヘルパー職員1名 市役所1名 市社協2名 包括支援センター1名
最初は情報交換。民生委員さんの事や、昨年9月から山形市が国のモデルケースとして受けたものを山形市社協へ委託した事業「福祉まるごと相談員」の話題。その他、認知症の介護者の接し方のことや、地域住民が予想以上に支援しているケースのことや、ケアマネさんへのグループスーパービジョンになったりと、今回も盛りだくさんの話題でした。その後はいつものように、ジェノグラム面接のロールプレイと家族理解事例検討を行いました。

家族理解勉強会もお陰様でまる2年を迎えます。私自身も団士郎先生のワークショップで学びながら、試行錯誤を繰り返しています。そして最近やっと「ああ、そういう事なのか」とわかってきました。団先生はワークショップのたびに「家族をまるごと理解することが大切だ。その理由は、理解することは誰にでも取り組めることであり、それが最大の援助だから」と教えます。この「最大の援助」というところが重要です。私たち相談を受けるものは、まずは、その家族がどんな生き方をしてきたのか、良いも悪いもジャッジすることなく、まるごと理解しようとする態度で臨む。相談された問題にこだわらず、どんな生き方をしてきた家族なのかを理解しようとする姿勢が相談者に「この人に相談すれば何かが変わるかもしれない」という信頼感を持たせることとなります。 そうなれば、その後の支援が進めやすくなります。そのための一つの方法として「ジェノグラム面接」を勧めてくれます。家族をまるごと理解していくと、問題が実は問題ではなく、別の所に課題があることに気づく事もあるのです。 家族を理解するには、自分自身の生育歴や、経験だけでは難しい。その当事者が生きていた時代背景、社会システム、ブーム・・・など幅広い情報が必要です。こちらの乏しい価値観だけで判断されては迷惑なだけ。だから私たちは頭を柔らかくする訓練が必要なのです。様々な人と意見交換をする機会が必要です。

さて、第12回は 総合福祉センター 3階会議研修室2 です。

都合のつく方、どうぞご参加ください！！

（世話役 佐藤）